

さずな

2019 **7** July

今号の題字

高原町立広原小学校 6年

大山 耀臣さん



伝統を受け継いで

高原町立広原小学校(西村さと子校長・児童数60名)は、児童・保護者・地域が一体となった教育活動を行っています。

特に「広原棒踊り」は、広原地区で昔から受け継がれており、保存会の方々の熱心な指導のもと、5・6年生が運動会で踊ります。また、高原の祭りで披露したり、毎年7月23日に地域の王子神社で行われる「六月灯」で奉納したりします。「六月灯」では、棒踊りの奉納の後に、PTAがパン食い競争や灯ろうのコンテスト、飲み物や焼き鳥等の販売で、大いに盛り上げます。小さな祭りですが、手作り感満載で、学校とPTA、地域が一緒になって取り組む恒例の祭りとなっています。【教頭 園田祐一郎】

CONTENTS

- ② 宮崎県PTA連合会定期総会
- ③ 宮崎県PTA連合会役員紹介
- ④ 国内研修
コラム「三輪車」
- ⑤ 宮崎県PTA新聞講習会
県P情報
- ⑥ トピックス「西都市立茶臼原小学校」
編集後記



緑の台地で 闘志を燃やせ

「かかわり」と「見届け」の教育を一体となつて実践するPTA活動

〔西都市立茶臼原小学校〕（外山健一郎校長 児童数48名）

西都市の中心市街地・妻から8kmの位置にあり、高鍋、木城、新富の4地区からおよそ等距離に囲まれた標高130mの台地の中心に位置する茶臼原小学校。近くには、茶臼塚と呼ばれる55基の古墳群があり、一ツ瀬川を挟んで西都原古墳群とも向かい合う古い歴史と豊かな緑に囲まれた学校です。運動場と前庭は、全面天然芝で覆われており、運動公園の中に学校があるかのような素晴らしい環境の中で、子どもたちの元気な声が響き渡っております。

また、近代児童福祉の父といわれる石井十次先生が孤児院を開いた



さて、今年度で創立74周年を迎え、児童数は48名となり、年々減少傾向にある小規模校ではありますが、保護者や地域の方々、教職員が一体となつて、「かかわり」と「見届け」を基盤とした人間力の育成を推進しております。

PTA戸数は20戸と決して多くはありませんが、全保護者が一体となつて、年間の様々な活動に積極的に関わり、教育環境の整備と環境緑化に献身的に参加をしてくれます。年3回の奉仕作業には、全保護者が参加するとともに、子どもたちや教職員も一緒に活動しております。前述にあるようなPTA数では、とても整備できないような広い敷地ではありますが、ここに秘策が…。それは、『重機』です。

奉仕作業の当日は、ダンプやトラックをはじめ、「ホイールローダー」「ショベルカー」「ユニボ」「ユニック」等々、一般家庭には、到底あり得ない乗り物が、広い運動場を所狭しと行き交う光景は圧巻です。日

頃培ったテクニックで重機を操り、効率よく作業を行います。

他にも、子どもたちの栽培体験活動のサポートとして、イモ植えや大根栽培の整地をしたり畑を耕したりする作業も快く引き受けてくれます。

また、年間を通してPTAが関わる行事も多く、秋の運動会や凧あげ大会、ウオーケラリー、みどりの少年団活動などは、事前に準備会議を開き、企画・立案・運営など主体的に活動し、その組織力は素晴らしいものがあります。有志で結成された『おやじの会』もメンバーが特技や趣味を生かしてプロフェッショナルな活動を展開しております。

これからも『子どもたちの笑顔のために』をモットーに、まず一つ。そして一つ一つ積み上げていくPTAでありたいと思います。

【教頭 金丸昭】